

# 二次がんについて—予防と早期発見のために—

- ◆ 造血細胞移植後には、“二次がん”といって、移植をしたご病気以外に、新たに他のがんを発症するリスクがあることが知られています
- ◆ 前処置に用いた大量抗がん剤や全身放射線照射、免疫抑制療法などが一因となると考えられています

## 移植後の二次がんリスク

- 移植後はがんにかかるリスクが一般人口の2～3倍に上昇すると報告されています
- 国内の同種移植後のデータによる発症割合  
移植後5年で2.5%  
移植後10年で5.9%  
10年目以降にも発症リスクがあります

## どんな部位が多いか？

- 口腔内、食道が多い  
移植を受けていない場合に比べて、10倍以上
- 皮膚がん、大腸がんなどのリスクも増える

慢性GVHDがある（あった）場合には二次がんの発症リスクが高く、口腔内や腸管のGVHDがあった場合には特に注意が必要です



## 二次がんの予防と早期発見のためにできること！

全員ががんになるわけではありませんが、危険性があることは認識し、万が一発症した場合には早期発見につなげられるように心がけましょう

### ◆がん検診を活用しましょう！

移植後には一般の場合よりもがん発症のリスクが高いことを認識して、職場や地域で案内されるがん検診などをうまく活用して、定期的に受診しましょう

### ◆自己チェックもできます！

口の中（舌や歯茎）、皮膚、乳房、睾丸などの部位は自己チェック

⇒おかしいな、何か変だな、違和感があるな、など気が付くことがある場合は、できるだけ早く担当医へ報告しましょう

### ◆慢性GVHD（特に口腔と消化管）があった場合は、要注意！！

歯磨きの時など、口の中をよく観察する習慣をつけましょう。

歯科受診、消化管（胃や腸）の内視鏡などの検査は積極的に受けましょう

### ◆たばこは避けましょう！

禁煙して、受動喫煙も避けるようにしましょう

### ◆生涯にわたって、検診の機会は利用しましょう！

10年目以降も二次がんを発症するリスクがあることが知られていますので、生涯にわたって検診を受け続けましょう



不明な点はLTFU外来担当者までお尋ねください。

2021年3月4日

## 二次がん：具体的な検査

部位	検査内容
口腔	歯科検診
食道/胃	胃カメラ (できればルゴール染色検査も)
大腸	大腸カメラ 便(潜血)検査
肺	レントゲン
乳房	触診 超音波検査 マンモグラフィー
子宮	内診 頸部細胞診 内膜(体癌)細胞診/組織診
前立腺	血液検査(PSA)
皮膚	皮膚科受診

※担当医師・看護師と相談しながら、自治体や会社の検診、人間ドック、近所の医院やクリニックなどを上手く活用して、漏れなく実施していきましょう。